

# 地域おこし協力隊の公募情報の分析 —ミスマッチの回避に向けて— Analysis on Recruitment of "Chiiki Okoshi Kyoryokutai" : Heading toward Avoidance of Mismatch

○ 栗原良樹\*      中島正裕\*\*  
○ Yoshiki KUWABARA\*      Masahiro NAKAJIMA\*\*

## 1. はじめに

2009 年から総務省により地域おこし協力隊(以下、協力隊)が実施され、6 年が経過した。各自治体は協力隊の導入により、地域活性化に関わる外部人材の確保とその後の定住促進を目指している。事業活用の際には自治体と協力隊員のマッチングの重要性が指摘されているが<sup>1)</sup>、適材適所に配置できていない(自治体)や期待していた活動ができない(協力隊員)などの、ミスマッチに起因する問題が生じている。こうしたミスマッチの要因は、1.自治体側の公募段階でのニーズ、2.協力隊員側の応募時のニーズ、3.事業開始後の体制、の3つの観点から究明できると考えられる。

本報告では1.に着目し、公募情報から各自治体のニーズを分析し、ミスマッチの回避に向けた知見の獲得を目的とする。

## 2. 調査方法・分析手順

公募情報<sup>注1)</sup>が掲載されるポータルサイト<sup>2)</sup>より、2009～2015 年度任用の公募情報 887 件(表 1)を収集した<sup>注2)</sup>。

分析<sup>注3)</sup>においては、まず公募情報のうち業務概要の記載内容を分類し、その変遷を分析する。

ついで、業務概要から活動内容のキーワードを抽出し小分類に整理した上で、活動分類としてグループ化する。そして、クラスタ分析 Ward 法に

**表 1 収集した  
公募情報の概要**

任用年度	公募件数	募集市町村数	募集人数
2009	7	7	12
2010	33	21	43
2011	51	42	92
2012	84	69	155
2013	230	191	397
2014	359	277	646
2015	123	104	270
計	887	711	1615

**表 2 模倣型と独自型の業務概要の例**

模倣型	独自型
・農林水産業への従事活動	・就農を目指した農作業補助
・地域行事等の支援活動	・地区の祭やイベントの開催
・住民の生活支援活動	・高齢者の見守りサポート
・地域の活性化に必要な活動	・直売所の立ち上げや運営

より、公募情報ごとの活動分類のパターンを類型化する。最後に、「記載内容の分類」×「クラスタ分析の分類」をクロス集計し、カイ二乗検定を行う。これらの分析の際には、筆者らが調査した自治体(S 県 M 町、N 県 T 市、Y 県 T 村)におけるヒアリング結果を適宜用いる。

## 3. 業務概要の記載内容の分析

業務概要の記載内容は、「地域おこし協力隊推進要綱の地域協力活動の例」の記載と似たもの(模倣型)と、自治体独自の内容が記載されているもの(独自型)に分類できた。表 2 に示すように、模倣型は独自型に比べ、活動内容や目的が曖昧であり、自治体側が期待している実務と協力隊員の希望する活動とのミスマッチが生じやすいと考えられる。

両者の割合の変遷を「実施自治体の協力隊の開始年度」および「公募情報に記載されている協力隊の任用年度」ごとに整理した(図 1)。2009～2011 年度に協力隊を開始した自治体の一年目の公募では、模倣型の割合が高い。これらの自治体の 2013 年度以降の公募になると、模倣型の割合は減少する。これには、初代協力隊員の活動が次代の協力隊員へ引き継がれる

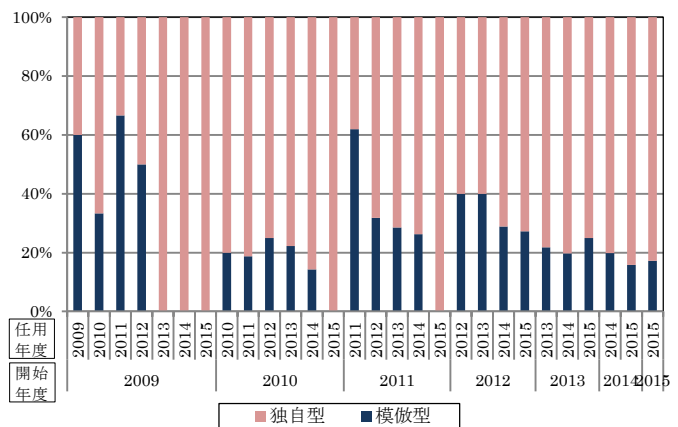


図 1 業務概要の記載内容の変遷

\* 東京農工大学大学院連合農学研究科 United Graduate School of Agricultural Science, Tokyo University of Agriculture and Technology. \*\* 東京農工大学大学院農学研究院 \*\* Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology. キーワード: 地域おこし協力隊, ミスマッチ, 公募情報, クラスタ分析

ことによって募集内容が具体化するケースと、地域が活性化の明確なビジョンをもつことで募集内容が具体化するケースがある。

前者の事例(T市)をみると、初代協力隊員が赴任した際には地域側に具体的なニーズがない状況であった。協力隊員は地域行事への参加などを通じて地域住民との信頼関係を構築し、自ら活動を創出した。その活動は次代の協力隊員にも継続され発展している。

後者の事例(M町)をみると、模倣型で公募を行い、協力隊員は実際には草刈りなどの生活支援を主たる活動としていた。その結果、協力隊員から「草刈りは地域おこしなのか？」などといった不満が生じていた。そうしたなか、A地区においてジビエを活用した事業化ビジョンが地域住民により作成された。これに基づいて協力隊員が採用され、事業の重要な担い手となっている。

一方で、2013～2015年度に協力隊事業を開始した自治体の一年目の公募では模倣型が依然として20%程度を占めており、ミスマッチが生じる可能性が示唆される。例えば、T村からは「周辺市町村が実施しているなかで、村長の肝いりで始まったが、協力隊員にやってもらうことが決まらず、どのように募集したらいいのか分からない」といった声も聞かれる。

#### 4. 活動内容の分析

活動内容を分類した結果を表3に示す。活動分類では「②観光関連」が最も多く8割を占め、「④情報発信」「③集落支援」「①一次産業」が約半数の公募情報でみられた。

クラスタ分析の結果を表4に示す。クラスタ2では②が、クラスタ4では②、④が、クラスタ3では②、③、④が、すべての公募情報に記載されている。またクラスタ1ではほかと比べて明確に特徴が読み取れない。ついで、クロス集計の結果を表5に示す。独自型ではクラスタ2、4が有意に多い一方で、模倣型ではクラスタ1の実施が有意に多い。

模倣型は自治体側のニーズが抽象的になる傾向があり、またクラスタ1をみても活動内容の傾向が明確に把握できない。こうした公募で

は特にミスマッチが生じやすいと考えられる。一方で独自型は自治体側のニーズが明確である傾向があり、またクラスタ2、4をみても活動内容の傾向が明確に把握できる。これらの公募では相対的にミスマッチは生じにくいと考えられる。

#### 5. まとめ

本報告では公募情報を用いて協力隊の活動面からミスマッチについて検討した。模倣型の公募を行っている自治体では、自治体側のニーズが抽象的になる傾向があり、相対的にミスマッチが生じやすい

と考えられる。そのため、公募前に受け入れのビジョン(何

のために、どこで、なにをするのか)を明確化することが必要である。

独自型の公募を行っている自治体では、明示された活動に協力隊員が集中できると考えられる。一方で、地域住民との接点となる「③集落支援」(祭りや地域行事への参加など)が活動内容に含まれていないため、活動の展開や任期後の定住を考える際に地域住民とのミスマッチが生じる可能性がある。

**注釈** 注1)業務概要や募集対象、募集人数、雇用形態、待遇などが記載されている。注2)2013/12/19および2014/12/29の2回実施した。注3)分析に内容が不明であった86件を除いた801件を用いる。

**参考文献** 1) 関司直也(2012)：農山村における地域サポート人材の役割と受け入れ地域に求められる視点、JC総研レポート、2012秋23、23-29。2) 地域を変えていく新しい力 地域おこし協力隊、<<http://www.iju-join.jp/chiiokiokoshi/>>。

表3 活動内容の分類

活動分類	小分類	公募件数	
		活動分類	小分類
①一次産業	農業	341 (42.6)	311(38.8)
	林業		162(20.2)
	漁業		99(12.4)
	畜産		32(4.0)
②観光関連	イベント	661 (82.5)	234(29.2)
	加工		358(44.7)
	ツーリズム		220(27.5)
	観光施設		218(27.2)
③集落支援	定住促進	382 (47.7)	208(26.0)
	生活支援		193(24.1)
	集落行事		312(39.0)
	伝統芸能		40(5.0)
④情報発信	HP・ブログ	383 (47.8)	250(31.2)
	新聞発行		40(5.0)
	PR活動		195(24.3)
	TV・ラジオ		10(1.2)
⑤環境保全	保全活動	76 (9.5)	58(7.2)
	環境教育		28(3.5)
⑥福祉	高齢者	70 (8.7)	46(5.7)
	若者		32(4.0)
⑦その他			102(12.7)

注)括弧内は分析対象公募件数に占める割合(%)を示す。

表4 クラスタ分析の結果

クラスタ	1	2	3	4
公募件数	445	102	124	130
①一次産業	63.6%	0.0%	46.8%	0.0%
②観光関連	68.5%	100.0%	100.0%	100.0%
③集落支援	58.0%	0.0%	100.0%	0.0%
④情報発信	29.0%	0.0%	100.0%	100.0%
⑤環境保全	17.1%	0.0%	0.0%	0.0%
⑥福祉	15.7%	0.0%	0.0%	0.0%
⑦その他	11.2%	20.6%	7.3%	16.9%

表5 クロス集計の結果

	クラスタ				計
	1	2	3	4	
模倣型	147*	4+	37	3+	191
独自型	298+	98*	87	127*	610

注1)単位は件数。

注2)\*は1%有意で多い、

+は1%有意で少ない、を示す。